

健康医療スポーツ学部 柔道整復学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。また、大学全体として、全学部生が共通して履修する必修科目、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」においては、少人数教育を実践しています。セミナー担当教員は、各学部・学科・コースのCPに基づく学修指導の他、学生生活全般にわたる指導を行っています。これにより学生は、社会人として求められる常識や教養等の汎用的能力と、各自の専攻分野や関心領域に関わる幅広い知識をバランス良く身につけることができます。この「セミナー」は、キャリア教育の一環として、学生の様々な相談にも応じています。

【教育方法】

本学科では、実学に主眼をおいた教育を行っています。専門科目では柔道整復理論と柔道整復実技を連携させることで、知識を深め、専門医療技術の習得ができるよう配慮しています。また、日本スポーツ協会認定アスレティックトレーナーの資格取得に必要な、テーピング実習やスポーツ現場での応急処置等の実践を想定した実技授業も展開しています。基礎から応用まで系統的に学修し、資格取得後に即戦力となるような人材の育成に力を入れています。

【教育の特色ある工夫】

- ・柔道整復師となるための学修において、チューター制度の導入を実施しております。学生が、気軽に教員に指導が得られる環境を大切にしております。
- ・柔道整復の医療技術や、アスレティックトレーナーがスポーツ現場で行える処置等の技術習得のため、実技科目をより実体験に近い形で経験させる工夫を行っています。
- ・外傷を想定した応急処置の方法として、包帯やテーピングを用いた固定方法などを実習します。必要に応じてビデオカメラで実技の様子を記録し、手順などが適切であるかを教員・学生相互で確認しながら実技授業を実施しています。